

## 滋賀県文化情報

## 『えんむすび』

## ●「第72回滋賀県美術展覧会」

## 作品募集のお知らせ

滋賀県美術展覧会は、広く県民の皆さまに日頃の創作活動の成果を発表していただく場として、また、身近に芸術を鑑賞していただく機会として毎年開催している展覧会です。この歴史ある美術展に、あなたもぜひ応募ください。

## ■応募資格

滋賀県内に在住または通勤・通学する方（中学生以下は除く）



## ■応募部門

平面（日本画・洋画など）、立体、工芸（陶芸・染色など）、書の4部門

## ■作品搬入

【平面・書】平成30年10月28日（日）

草津クレアホール

【平面・立体・工芸・書】平成30年10月27日

（土）、28日（日）

県立文化産業交流会館

※いずれも10時30分～16時

## ■展覧会

【会期】平成30年11月8日（木）～14日（水）

※月曜日休館

【会場】滋賀県立文化産業交流会館

（米原市下多良2-1-37）

■公開審査…11月1日（木）11:00から県立

文化産業交流会館で

■審査員による講評会…11月11日（日）

工芸・書／10:30～▽平面・立体／14:30～

## ■募集要項等の問合せ先

（公財）びわ湖芸術文化財団地域創造部

（077-523-7146）

## ●beyond2020

（ユビブディーゼロディーゼロ）

プログラムをご存知ですか？

beyond2020プログラムとは、

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、日本文化の魅力発信する様々な事業・活動を政府等が認証し、ロゴマークを付与して統一感を持って全国展開する取り組みです。

認証を受けた事業・活動は、ロゴマークを告知物等に使用でき、文化庁が運営する文化情報ポータルサイト「Culture NIPPON」にも掲載されて国内外に情報発信されます。

滋賀県も認証組織として、皆様の文化活動を「beyond2020プログラム」として認証し、ロゴマークを付与します。市町、民間事業者、任意団体等が主体となつて地域で行う文化活動や祭りなども認証の対象となりますので、皆様からの積極的な申請をお待ちしています。

東京オリ・パラに向け、湖国の文化を一緒に発信していきましょう。詳しくは滋賀県のホームページをご覧ください。

（<http://www.pref.shiga.lg.jp/c/keminin-s/beyond2020/beyond2020.html>）



## Made in Shiga

### 「身近に感じる「美」の世界

近年に実施された「暮らしアート事業」の中から地域を元気にする主な取り組みを紹介します。

#### ●ガラスアート展 in 長浜

— Access to Glass Art —

ガラスアート展 in 長浜実行委員会会長 辻川 作男

長浜のまちは、国指定名勝の「慶雲館」や日本最古の長浜駅舎など伝統的な建造物や町並みが大切に守られ、古民家・商家を活用した黒壁スクエアや美術館・ギャラリーといった文化の拠点も数多く見られます。また、世界遺産に認定された曳山子ど



も歌舞伎、商家に残る北大路魯山人の美術品、街の再生事例として全国的にも高い評価を得ている市民主導の黒壁ガラス運動など、町衆の文化を愛でる気風が色濃く残るまちです。そこで、長浜の市街地全体を美術館と捉え、市民と作家の交流やワークショップなどを組み入れた回遊型の「ガラスアート展」を2017年11月18日(土)～11月27日(月)に開催しました。

長浜には本物の「美」があること、またそれを創り出す「力」能力・技術」がある

ことを認知してもらい、長浜市がガラス文化を始め多様な芸術文化を育む懐の深いまちであり、誰もが誇りを持つて住み続けるまちとなることを願う実践です。

具体的事例として、長浜の歴史街道である北国街道沿いで展開された取り組みを紹介します。

#### アートグ

ラス制作集団「イートテン」14名の作家によるガラス展、黒壁作家作品展、ルネ・ラルリック作品展、旧商家・安藤家

での和ガラス小品展、ステンドグラス受講者作品展、黒壁ガラス館ではヨーロッパのガラスウエアと黒壁体験教室におけるアイルヌーボー風ガラス体験などで、地ビール・手打ちそば・グラスジュース・近江牛・照り焼き・フレンチとガラス食器の融合、オペラ・ミニライブコンサートや記念講演なども実施しました。

著名な作家の作品に加え、地元の新進気鋭の作家やガラス愛好者による作品なども展示し、また、見るだけでなく、ガラス体験や講演会等もまじえて参加者の幅を広げるようにしました。その結果、ガラスという地域資源を活用し、地域を芸術文化で活性化していくこうとする流れをつくることができましたと自負しています。



## アートのみかた

### — 滋賀県立近代美術館所蔵作品をもとに —



ワシリー・カンディンスキー「小さな世界V」 1922年 木版・紙 35.4×27.6cm 滋賀県立近代美術館所蔵

#### ● 絵画になった音楽

滋賀県立近代美術館主任学芸員 田平 麻子

ワシリー・カンディンスキー（1866—1944）はモスクワで生まれ、モスクワ大学で法律と経済学を学んだ後、ミュンヘンに移り美術を学びました。1910年から抽象画を描き始め、抽象画の創始者と呼ばれます。

目に見える具体的なモチーフを描くことよりも、目には見えない人間の精神を描くことを探求することが大切であると考えた彼は、色彩と形体によってのみ構成される抽象絵画の制作に邁進しました。当館所蔵の「小さな世界」の連作は、幾何学的なモチーフを配したリズムミカルな構成が特徴で、画面のなかで色や形が弾みながら自由に動き、音を奏でているかのように見えます。

理知的な構成と同時に色や形の豊かなハーモニーを感じさせる作品です。また本作品は版画作品ですが、さまざまな版画技法が用いられており、木版による柔らかな色面や銅版による繊細な表情の線など、それぞれの技法の特徴を鑑賞することができます。

## オペラ日和

### ● 歌劇《魔笛》の魅力

びわ湖ホール事業部

チーフ・プロデューサー 舘脇 昭

びわ湖ホールでは10月に「沼尻竜典オペラセレクション」としてモーツァルト作曲のオペラ《魔笛》を上演します。この作品は、「フィガロの結婚」と並んでモーツァルトのオペラの中でも特に人気の高い作品です。

《魔笛》は彼の最後のオペラで、1791年9月にモーツァルト自身の指揮によりウィーンで初演されました。上演を重ねるごとに人気が高まり、翌10月には20回以上の上演、そして12月の彼の死後、評価はうなぎ登りに高まり、プラハ、ベルリン、ロンドン、そして1816年にはミラノで上演されヨーロッパ中に広まってきました。



夜の女王…角田祐子

内容は囚われている王女パミーナを王子タミーノが救出出すという設定で始まる冒険ファンタジーで、心温まる楽しいエピソードが繰り返り広がられます。お子様から大人の方まであらゆる年齢の方にお楽しみいただける作品で、「なんと美しい絵姿」、「パパバの二重唱」、「夜の女王の aria」など、有名な歌がたくさん登場し、極上のモーツァルトのメロディをお楽しみいただくことができます。

指揮にびわ湖ホール芸術監督の沼尻竜典、演出に新進気鋭の佐藤美晴を迎え、ソプラノのオペラ・アリアの中で極めて高い技術が要求される夜の女王にドイツのシュトゥットガルト歌劇場で活躍、ドイツ連邦共和国から宮廷歌手の称号が与えられた角田祐子、王女パミーナに日本を代表する歌姫の砂川涼子、王子タミーノはびわ湖ホール四大テノールの山本康寛とすべて沼尻監督渾身のキャスティングでお贈りします。



パミーナ…砂川涼子

### ● オペラの楽しみ方

#### 「心に響くアリア」

有名なオペラには心に響くアリア(詠唱)や名曲が存在します。《蝶々夫人》ある晴れた日に、《カルメン》ハバネラ、闘牛士の歌、《椿姫》乾杯の歌、《アイーダ》凱旋行進曲、《トゥーランドット》誰も寝てはならぬ、《リゴレット》女心の歌、《トスカ》星は光りぬ、歌に生き恋に生き、などなど。

まだまだ他にも沢山ありますが、一度は耳にしたことがあるメロディが必ず散りばめられていますので、そんな「お気に入り」を探してみてください。

### モーツァルト作曲《魔笛》

日時	10月6日(土)15:00 開演
会場	びわ湖ホール大ホール
指揮	沼尻竜典
演出	佐藤美晴
出演	ザラストロ：伊藤貴之 夜の女王：角田祐子 タミーノ：山本康寛 パミーナ：砂川涼子
管弦楽	日本センチュリー交響楽団
チケット	11,000円(S席)～2,000円(U24席)
	お問い合わせはびわ湖ホールチケットセンター 077-523-7136(10時～19時、火曜日休館)